

新たな闘いに備えよ!



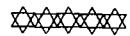
86. 11. 5

No. 2398

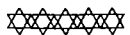
国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)・(公衆)〇四七二(22)七二〇七

「動労千葉の決意」10.30 中野委員長 提言



動労千葉の強力順法とともに全国で、現場の労働者が立ちあがって素晴らしい闘いを開始した。国鉄労働者が主人公になる時がきたのだ。この闘いにもっとも恐れているのが中曽根である。まさに、闘いの攻防の一点はここにある。



「こんなはずじゃなかった」

矛盾がますます拡大する

国労中央の新執行部に幻想をもっても駄目だ。現に一カ月あまりたっているが、何ひとつ方針を出していない。にもかかわらず、大きなウネリが全国至るところで起っている現実に注目し、このことに依拠しなければならぬ。

衆議院は確かに通過し、闘いは困難性を増していることは事実だ。国鉄が分割され、新会社の社長に大独占資本の親分連中が座る。何のために分割・民営化をやるのか、われわれが指摘したことが具体的事実をもって明らかにっていくではないか。多くの国民はこんなはずじゃなかったという話をはじめまるだろう。

「大変な情況が生まれる」

新たな闘いに備えよ!

「十一月ダイ改」後、全国五万人の労働者が「人材活用センター」送りだと騒いでいる。だが、この七月、一万五千人の「人活」送りをした結果、この労働者を中心として国労の政権がひっくりかえる事態がおこった。

中曽根

自民党政

府から総

評・社会

党、そし

て国労旧

執行部が

一連・一

体となっ

てやろう

とした目

論見が全

部ふっと

んでしま

った。今

度は五万

人だ。五

万の労働

者といっ

たらたい

した数だ。大変な情況が生まれる。その他、種々問題が起る。われわれは、今集会をもって新たな闘いに備えなければならぬ。

労働者、仲間を犠牲にして

どうして労組の指導者といえるか

いま国鉄ばかりじゃない。石炭・鉄・自動車、あるいは造船、日本の基幹産業でレイオフだ、首切りだと大騒ぎしている。まさに危機に瀕した日帝の危機にかけられた攻撃が、この国鉄を軸にして襲いかかってきている。すべて労働者に対する攻撃がはじまったのだ。

この攻撃に対し、総評・社会党に何が期待できるのか。

今日、結集している国労の仲間達は、自己保身に汲々としている幹部達を打倒・放逐し、自ら主人公にならなければならない。国労を絶対に守らなければならない。

いま「雇用と組織を守る」と寝言をいう西日本、東海の委員長が集ったそうだが。

雇用を守るためか、そうじゃない。自分達の派閥系列の雇用を守るためだ。

動労革マルと同じだ。

労働者を犠牲にして、仲間を犠牲にしてどうして労働組合の指導者として生きていく必然性があるのか。現場の労働者の苦しさもすべて共有し、幹部が泥まみれになって先頭に立つことを通してのみ事態が切り開かれるのではないか。

職場からあらゆる

行動を開始せよ!

また、新たな闘いが開始される。「十一月ダイ改」以降、膨大な余剰人員がでるといふ状況の中で、この暴挙にひるまず、あらゆる戦術で闘う。そして、国労の仲間も、職場からあらゆる行動を開始してほしい。その時、いまの状況が大きく変わり、全国を席卷できる。

労働者のもつ根源的なエネルギー、怒り、闘うことの素晴らしい迫力、このことを堅く信頼し、その先頭で闘っていく。